

生産性の高い畜産の確立

～ 個戸の課題に対応した酪農技術支援 ～ [本所地域係]

1 背景

- 苫前町では、生産乳量が契約数量に達していない農場が半数を占めている。
- 生産基盤を維持するためには個戸の生産性を向上する必要がある。
- そこで、個戸の課題に対応した酪農技術支援により出荷乳量の向上を図った。

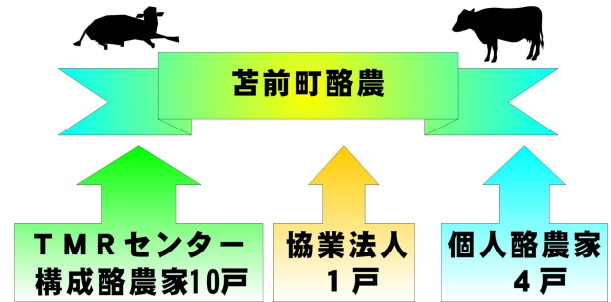


図1 苫前町酪農の生産構造

2 取り組み

改善効果の高いと考えられる農場を重点的に支援した。

農場	支援内容・提案事項	実施状況
D モデル 農場	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査を基にした飼養管理改善支援。 → 体重に基づく飼料給与内容の見直し提案 → 暑熱対策提案（換気扇増設、特殊飼料活用） → 選び食い対策提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場とTMRセンターの問題が浮き彫りとなった。 → 全頭体重測定 → 換気扇増設 → 少量多回給与（給餌回数2→3回/日）を検討中
G	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系疾病対策支援（製薬会社連携）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチネーションの実施。
H モデル 農場	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査を基にした飼養管理改善支援。 → 体重に基づく飼料給与内容の見直し提案 → 暑熱対策（換気扇増設） 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場とTMRセンターの問題が浮き彫りとなった。 → 全頭体重測定 → 次年度、換気扇の増設と位置を改善予定
M	<ul style="list-style-type: none"> ・牧草地の物理性改善（エアレーション）の効果確認。 ・牧草サイレージ調製支援（実態把握）。 ・輸入粗飼料（ドライコンサイレージ）給与提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアレーション施工による効果を実感し、次年度も施工予定。 ・膨軟な新播草地の収穫を中止。 ・ドライコンサイレージの使用を検討。
N 協業法人	<ul style="list-style-type: none"> ・マイコプラズマ罹患牛の淘汰を提案。 ・ほ育牛下痢対策支援。 ・飼料会社による定期巡回立会、情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・罹患牛の淘汰実施。 ・石灰塗布実施。 ・継続して実施中。
TMRセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料用とうもろこしの栽培支援（雑草対策）。 ・デントコンサイレージ調製支援（カビ毒対策）。 ・飼料用とうもろこしの栽培の是非を投げかける。 ・サイレージの正確な乾物率の測定を提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生雑草に効果のある除草剤散布。 ・カビ毒吸着剤の増量実施。 ・飼料用とうもろこしのあり方検討。 ・生ゴミ処理機による乾物率測定を実施。



写真1 モニタリング調査
（糞の内容物確認）

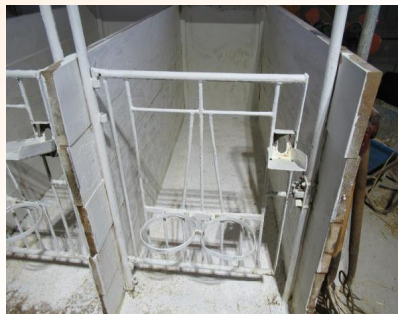


写真2 ほ育ペンの石灰塗布



写真3 デントコンサイレージ収穫
調製支援（カビ毒対策）

3 成果



写真4 換気扇増設
(陰圧排気側より撮影)

【D農場事例】

すでに来年の夏に向け、今から換気扇の増設を行う農業者も見られるようになった。



農業者の声

【D農場】

モニタリング調査によって、自分の農場とTMRセンターの問題が明らかになって良かった。

【G農場】

施設投資をしていたお陰で乳牛のストレスも少なく疾病も発生しなかったため、契約数を達成することが出来た。

【H農場】

今年の猛暑による暑熱ストレスは教訓となった。来年は必ず扇風機を増設する。

農業者の改善意欲は向上したが、これまで、牛舎への投資を控えて来た地区のため、換気扇などの暑熱対策が遅れていたことから、8月以降の猛暑による影響を強く受けた。そのため、乳量の低下に加え、疾病等による廃用も多く、想定以上の著しい生産乳量の減少となった。

○出荷乳量が指定団体（ホクレン）との契約数量に達した農家 1戸

目標11戸
到達度9%

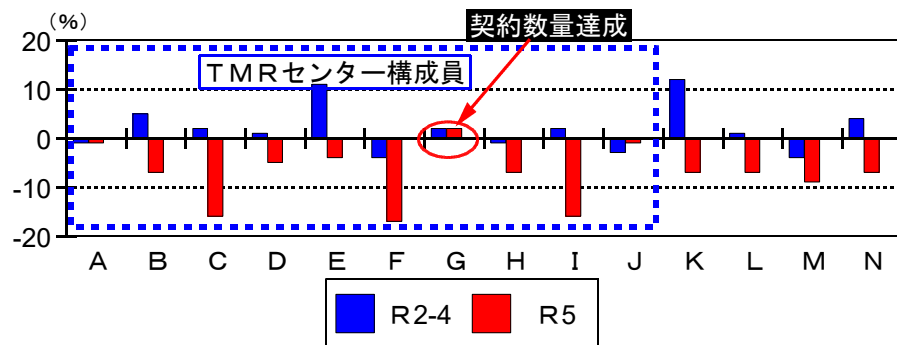


図2 契約数量達成率

4 今後の対応

- (1) 個戸の課題に対応した酪農技術支援。
- (2) 地域支援システム（TMRセンター）に対する支援。

酪農危機に対応する酪農経営の育成

～ 自給飼料を有効活用した酪農経営支援 ～ [本所地域係]

1 背景

- 天塩町では、広大な草地を基盤とする放牧酪農経営が行われている。
- 放牧実施農場の9割は生産乳量が契約数量に達していない。
- そこで、自給飼料を有効活用した酪農技術支援により出荷乳量の向上を図った。

2 取り組み

天塩町放牧の会（会員9戸）を対象に、以下に取り組んだ。

農場	支援内容・提案事項	回数 (参加人数)
全体	乳質向上支援（サーモシール活用の提案） 草地管理技術向上支援（粗飼料分析に基づく草地管理の提案） バーンミーティングの開催支援 情報交換会の開催（フリーディスカッション） 交流会の開催支援（もっと北の国から楽農交流会） 乳質研修会の開催（異常乳について）	1（5） 2（4、5） 1（7） 1（6）
B	牛群モニタリング調査 飼養管理改善提案（飼料給与作業の見直し） 飼養環境改善提案（牛床マットの交換）	
C	飼養管理改善提案（搾乳手法・乳房炎対策）	
D	草地管理改善提案（追肥）	
E	牛群モニタリング調査 飼養管理改善提案（飼料給与内容の見直し）	
F	飼養管理改善提案（飼料給与作業の見直し） 放牧地管理改善提案（泥濘化対策）	
G	飼料用とうもろこしの栽培支援（雑草対策） サイレージ調製支援（とうもろこしサイレージのガス対策） 飼養環境改善提案（鳥害対策）	
H	飼養管理改善提案（子牛の下痢対策・初乳給与・ほ乳方法の見直し）	

3 成果

(1) 改善策の実施

農業者が農場の現状と課題を把握することができ、
3戸が改善に取り組んだ。

E農場・・・配合飼料の給与内容変更をメーカーと協議

F農場・・・給餌前に飼槽を掃除するようになった

G農場・・・サイレージのガス抜きが行われた

モニタリング調査のおかげで自農場の牛の状態が良くないことに気づけた。
飼料給与内容を見直して改善を図ります！



(2) 改善意欲の向上

研修会等を通して農業者の乳質改善に対する意欲が向上した。



乳質研修会

異常乳の発生要因がわかった。
今後はバルク乳の乳質成績を
確認し予防に努めたい。



(3) 活動の活性化

情報交換会や研修会を開催するなど、酪農技術向上に向けた活発な取組が行われるようになった。

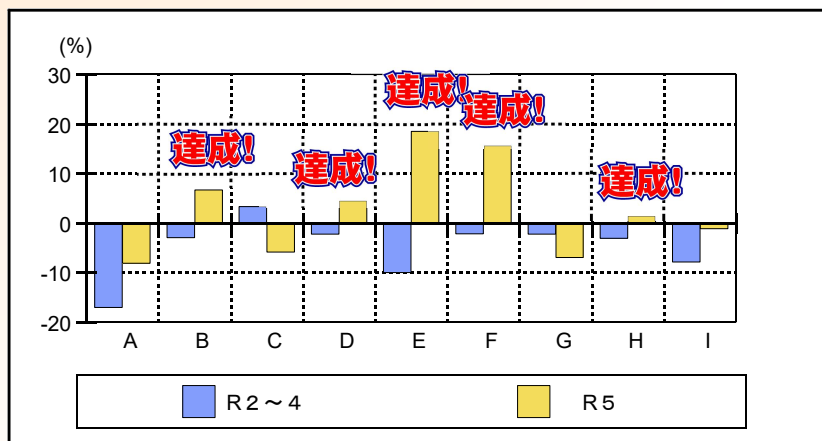
<集会等の開催回数>

R4 R5
0 ⇒ 5



バーンミーティング

(4) 契約数量の達成戸数



各農場の達成状況（※契約数量に対する生産乳量の割合）

契約数量の達成戸数が1戸→5戸に増加した。

4 今後の対応

- (1) 酪農技術向上のための研修会の開催
- (2) 個戸の課題に対応した改善支援を継続

水稻直播栽培における技術向上支援

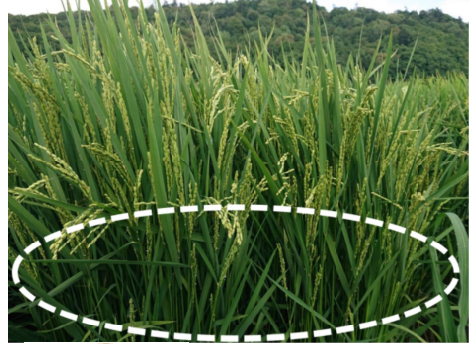
～ 基肥銘柄に合わせた適期追肥による品質向上 ～ [支所地域係]

○普及対象 南るもい輪作研究会水稻直播栽培者(8戸)

○具体的推進事項 基肥銘柄に合わせた適期追肥の実施(実施戸数2戸⇒5戸)

1 背景

- 南留萌管内では南るもい輪作研究会を中心に水稻直播栽培に取り組んでいる。
- R4年度、輪作研究会で行った生育調査の結果、問題点として遅れ穂の発生による玄米品質の低下が挙げられた。
- 遅れ穂発生の要因として、①LP肥料の使用、②幼穂形成期前追肥により、生育後半の肥料成分が過多となり、発生していると考えられる。
- 基肥銘柄に合わせた適期追肥による水稻直播栽培の品質向上に向けた支援を行った。



8月下旬
なのに出穂
開花して
しまった!

2 取り組み

(1) 基肥銘柄に合わせた適期追肥の実施

① 提案内容

基肥銘柄に合わせた適期追肥に向けて以下のような改善提案を行った。

【基肥銘柄】

Dd系肥料(ジシアンジアミド系)

⇒

肥効の弱くなる幼穂形成期前

LPコーティング系肥料

⇒

肥効の弱い生育初期(2葉～4葉期)

② 活動内容

方法	内容
研修会	R4年生育調査結果報告、次年度への改善点提案
生育調査	①苗立本数調査、②止葉期調査、③成熟期調査、④収量・品質調査
FAX情報	①追肥時期、②倒伏軽減剤、③適期収穫
戸別巡回	適期追肥に向けた改善提案、追肥時期の周知



研修会にて改善点を提案



研究会員と生育状況を確認

令和5年6月20日

南るもい 直播通信 No.1
輪作研究会

6/16に各会員及び関係機関の協力の元、苗立本数調査を実施しました。目標としていた苗立本数はおおむね確保されています。
今後は、穂の生育状況や生育条件を踏まえ、適期追肥を実施しましょう！

苗立本数調査結果

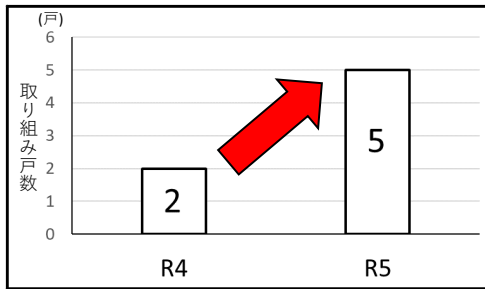
氏名	品種	栽培様式	苗立本数 (本/m ²)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	穂長 (cm)
えみまる	乾田直播		197	14.6	4.0	0.8
えみまる	乾田直播		297	14.3	3.7	0.7
えみまる	乾田直播		278	15.9	3.1	0.8
えみまる	乾田直播		246	14.6	4.5	2.0
えみまる	乾田直播		248	18.7	4.1	0.7
えみまる	乾田直播		245	16.3	4.1	1.0
えみまる	乾田直播		138	16.2	3.3	1.2
それゆたか	乾田直播		201	19.7	3.9	0.7

表1 生育調査結果

調査結果を基に技術情報を発信

3 成果

(1) 適期追肥取り組み戸数の増加



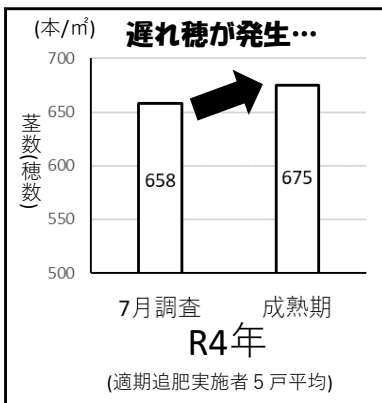
適期追肥取り組み数の推移

研修会の内容を踏まえて、追肥時期を変えてみたよ！

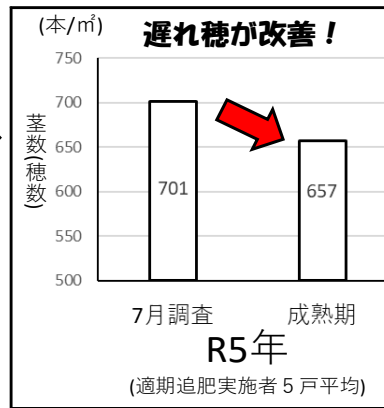


取り組み戸数が3戸増加！

(2) 遅れ穂発生の改善



茎数(穂数)の推移 (R4年)

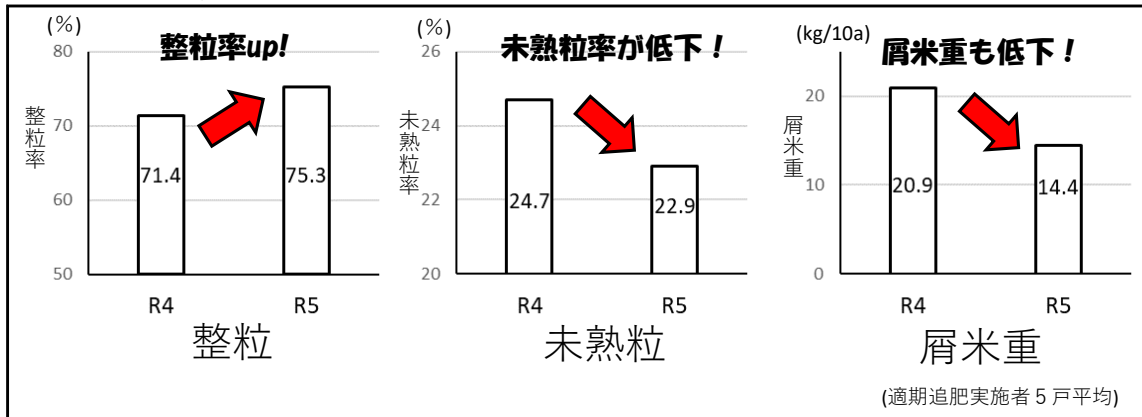


茎数(穂数)の推移 (R5年)

適期追肥をしたことで遅れ穂が改善したよ！



(3) 品質の向上



玄米品質の推移

遅れ穂がなくなったことで、整粒歩合が高まったよ！



屑米が少なくなったことで玄米品質が向上してよかった！



4 今後の対応

- (1) 技術向上と改善効果が確認できたことから、本年度で地域課題としての活動は終了とする。
- (2) 南るもい輪作研究会への支援は一般活動の中で引き続き行う。